

10+2 理科コース実験室寄贈記念プレート除幕式

2011年11月6日午前7～8時

酒井スピーチ原稿

ナマスカール。マッシュムの教育委員会の皆さん、本校の運営委員会の皆さん、そして先生、生徒の皆さん、今日は朝早くからお集まり頂き、ありがとうございます。皆様の努力と熱意で7月11日に念願の10+2の理科コースを開始することができました。10+2の学校を建設してから11年経過して、ようやく皆さんの夢が実現したことを、私は大変嬉しく思っています。

今朝はまず最初に、この理科コースの実験室の整備資金を寄付して下さった「九州大学ワンダーフォーゲルクラブ」のことに紹介したいと思います。寄付して下さったのは、山歩き(トレッキング)が好きな大学生達のクラブのOBで、私が卒業した九州大学の先輩や後輩に当たる方々です。山国で貧しいネパールの発展のため、また志のある若い人達のために、学校建設の支援活動をしている私の考えに賛同して下さい、クラブ創立50周年の記念事業の一つとして、97の方が総額132万円の寄付をして下さいました。ここにあるリストに各人のお名前と寄付金額が書いてありますが、70歳代の方から20歳代の方まで様々な年齢の方が、一人5万円から1万円寄付して下さいました。本校の実験室の整備のため、ネパールに一度も来たことのない沢山の日本人が、皆さんの熱い要望に応じて寄付して下さい、その御蔭で3つの実験室が整備され、このコースが始まったことを忘れないで下さい。

私は3月にネパールを訪問した時に、実験施設の製作をカトマンズの業者に発注しました。6月には3つの実験室が完成したという知らせを日本で受け取りましたが、実験用具が揃っておらず、教師も決まっていような状態で、7月の開校は大変難しいと思っていました。1年間かけて準備をして、来年度開校するようにキャンパス長のGopal Shresthaさんには勧めました。しかし、「今年入学したいと思っている学生は1年間、無駄に待たないといけませんよ！」というGopalさんと運営委員会の皆さんの努力で、今年7月に本コースを始めることができ、大変嬉しく思っています。

12名の入学生は、本校の最初の卒業生になります。皆さんが学んでいる理科、つまり物理、化学、生物学は医学、工学、農学などの様々な分野の基礎であり、ネパールの発展、そして人類の発展の鍵を握っています。実験や実習では、充分注意しながら機器を取り扱い、机上の知識だけではなく具体的に科学を学んで下さい。そして将来は土木や電気などの工学技術者として、あるいは看護婦や医師、あるいは教師として社会に貢献するようにして下さい。

これまで私達は永年にわたり、本校とマッシュム高等学校に日本青年海外協力隊の理数科教師ボランティアが派遣されるよう、ネパールの役所やJICA事務所に要請してきました。ようやく来年度には派遣してもらえよう。そのために来週、JICAカトマンズ事務所のチームが学校を視察に来られます。その時には、ボランティア派遣が実現するよう皆さん一致協力して対応して下さい。

私達の短い滞在のため、今日は朝早くからお集まり頂き、このようなプログラムを開催して頂きありがとうございました。